

令和4年度都市科学部運営諮問会議議事録

日 時 令和5年3月14日(火) 13時00分～14時24分
場 所 本部棟3階第一会議室 (見学：都市科学部講義棟)
出 席 (主 宰) 藤掛洋子
(外部委員) 宮坂久美子、師岡健一、青木優介 (オンライン)、
(学内委員) 小池文人、樽沼範久、
(オブザーバー) 松本由香、鈴木崇之
欠 席 (外部委員) 平野雅之

議事に先立ち、藤掛学部長から挨拶があり、続いて、委員の紹介があった。

議 題

1. 議事録等の確認

資料2に基づき、令和3年度第1回都市科学部運営諮問会議議事録について、原案のとおり確認された。

2. 令和4年度に係る都市科学部の取組について

藤掛学部長から、令和3年度の運営諮問会議コメントシートにいただいた外部委員の方からの意見に対し、資料4に基づき説明があり、小池委員、樽沼委員、松本(由)オブザーバー及び鈴木オブザーバーから補足説明があった。

3. 都市科学部への期待・提言

外部委員から以下のとおり、質問及び助言・提言があった。

(宮坂委員)

ショートビジットなど実際に海外を訪問する授業や、地域と交流する実践的で具体的な交流の授業が再開できるなど、いろいろな取り組みができていて素晴らしいと思う。

神奈川県では、都市科学部とのかかわりという部分では、水源地の環境保全や水害対策等のハード面の取り組みに力を入れている。またソフト面では、障がい者の立場に立ったインクルーシブな取り組みも進めていて、都市科学部の学生に神奈川県庁を就職先として選んでもらえるように、県は働く場としても魅力を高めたい。

質問が2つある。

まず1つは、コロナに関しては来年度4年生になる学生への影響が一番大きいと思われるが、先ほどの説明や、資料にも、学生に今年度も学期の始めと終わりに個別面談をしたと

ということが書かれている。都市科学部ならではというより大学全体の取り組みになると思うが、コロナ禍での学生のメンタル不調について、何か特別に取り組んだことはあるか。

2つ目は、アンケート。都市科学部の学生だけに行ったこのアンケートは、面白く非常に有意義だと思う。アンケート調査の質問は、経年変化を見るためにあまり変えない方がよく、初めに固めておくのが肝心だが、7. 論理的思考力、8. 批判的思考力、9. 創造的思考力でこの3つの問いは似たように感じる。また、10番はグローバルに発信する能力、11番12番は多様性の尊重というところで大事だと思う。これらの問いは、都市科学部の先生方で議論をして、この部分が都市科学部の特徴を見られるというようなことを検討された結果なのか。

(藤掛学部長)

他学部のモデルを少し改編して作成したもので、アンケートをした後に改善点も見つかっている。今ご指摘いただいた点も受け止めて、的確な質問を精査していきたい。

(小池委員)

コロナの影響に関して、全学のアンケートでの傾向としては、専門志向が低くなり大学は就職のためのステップという感じの学生が増えており、学科によっては、大学院への進学率が落ちている。理由としては、フィールドに出ることがなく現場を見ることがなかったため、動機づけが弱かったことだと思われ、今後は良くなるのではないかと期待している。

(藤掛学部長)

面談については、各学科で呼び方は違うが教室制度があり、個別面談や、教員が1対1でやる様々な取り組みをしている。確かに、来年度の4年生は2年間を失ったという風に思っている学生もいるので、引き続きしっかり見守って対話する努力をしていきたい。

(師岡委員)

コロナの影響に関しては、今年度になって、ようやく海外研修、現場見学会、現場体験というものが行えるようになったことはよかったと思う。また、地域連携についても、模型の制作を含め防災マップの作製など、地域の人との連携は非常に良い取り組みだと思う。

また、大学では、コロナの後遺症あるいは副反応で苦しんでいる学生はいるか。

教育改善に関するアンケートについては、とても重要だと思うが、1学年250名くらいいるなか、回答が64と少ない。回答数をあげないと信頼度は上がらないと感じている。また、今後は学科ごとの分析もできると良いのではないか。

併せて、アンケート評価の低い、10番、12番、19番に関してはどのような分析をされているかお聞かせいただきたい。

(藤掛学部長)

コロナの後遺症に関しては、私自身は、報告は受けていないが、参加の先生方であれば発言をお願いしたい。

アンケートに関してはタイミングが重要で、授業等の中でアンケートに答える時間を取ると回答率が上がる。アンケートはおっしゃる通り、数字が上がらないときちんとした分析ができないため、さらに上げていきたいと思っており、今年度に関しては、卒業証書授与の際にアンケートを取ることを各学科長に依頼している。また、問いの立て方が今一つ答えにくいものがあったので、反省しており、ご指摘いただいた点を受け止めて取り組んでいきたい。

(小池委員)

コロナ後遺症についてはあまり考えたことがなかったので、全学的に調べなくてはいけないかもしれない。

(鈴木オブザーバー)

コロナ後遺症に関しては、細かいところまでは承知していないが、修士学生で、卒論の終わりころに大学に来られなくなった学生がいる。他にコロナかどうかは不明だが半年くらい体調が悪い学生がおり、必ず大学に来なければいけないというのではなく家で研究を進めるとか、病院の帰りにでもちょっと連絡してね、という風に、対面ではなくても連絡を取るようになってきた。

(小池委員)

(師岡委員に)せつかくの機会なので教えていただきたいが、建築学科と都市基盤学科が併願性を廃止することについて、高校から見たときにどう見えるか。高校生は、建築と土木の違いをどのくらい理解しているか。

(師岡委員)

はっきり理解できている高校生はそれほど多くはないかもしれない。そのため、大学側で、入口のところでそれぞれの学科の魅力について発信、広報することが大事だと思う。

(鈴木オブザーバー)

学科を迷っている受験生から見ると、枠がふたつあってどちらかひとつに受ければいいという併願制がなくなるため、学科教員にも志願者が減るかもしれないとの危機感があり、今まで以上に広報に力を入れなくてはいけないと認識している。ちょうど昨日と本日、各研究分野で広報用のビデオ撮影を行っており、いろいろなところでアピールしていきたいと考えている。

(青木委員)

高専でも学生が少しメンタルを病んでしまうということが最近多いかなと感じているため、さまざまな活動が本格化する中で、メンタル的に不調に陥ってしまった学生にどのように対応されているか伺いたい。

また、アンケートの結果は非常に気になっており、項目を整理してぜひ続けていただきたい。回答率については対応をしていただき、回答率が向上することを期待している。

(鈴木オブザーバー)

学生が突然動けなくなったときに、あまりプレッシャーをかけないように、病院の受診を勧めたり、研究の話は少しにして、まずは体力を回復させることを優先している。また、教員がうまく調整しながら、土木技術者として卒業には最低限ここまでは行きたいね、ということ、体調が戻ってきたころに話し合いながらゴールを決めるということをやってきた。プレッシャーをかけないようにして、ここまでやれば卒業できるからという安心感を与えることを心掛けている。

(松本オブザーバー)

建築学科では、毎年オリエンテーション時に個別面談をして学生全員と話をする機会を強制的に設けている。また、設計製図のデザインの指導や演習科目など、教員が学生一人一人と話をする機会のある科目がたくさんある。そのため、大学に来なくなって様子がおかしいというような学生の情報をキャッチしやすい。心配な学生がいた場合は、教員会議で共有し、別の授業では元気にしていたということを確認したり、比較的仲良くなった教員が声をかけることにする等教員同士のネットワークを活用しながらできるだけ学生一人一人に合った対応ができるよう工夫している。

(樽沼委員)

都市社会共生学科では、1年生の前期は基礎演習という少人数のクラスがあり、2年生、3年生はスタジオ授業を2種類履修することが必修になっている。4年生になると各研究室でゼミということで卒業研究に向かっていく。1年生の後期だけ少人数の授業がないが、それ以外はかなり密接になっており、学生と教員の距離は近い。

(小池委員)

メンタル対応は、今は学科に任されているところがあるので、例えば学部全体で学期ごとに必ず個人面談をするというようなことを決めてもいいかもしれない。

(鈴木委員オブザーバー)

一つだけ、資料9の中に入っている外部評価について。都市基盤学科ではJABEE（一般社団法人日本技術者教育認定機構）による技術者教育プログラムの認定を受けている。教育の質が保証された形で、技術者としての基礎が学べるということが外部による評価でも保証されているということであり、これからの広報としてもアピールしていきたい。

（藤掛学部長）

私が担当している地域課題実習：「南米農村部での学びを生かした横浜共生プロジェクト」で、県営の笹山団地において子どもの居場所づくりを行っている。学生が子どもの学習支援をしたり、企業や地域の農家と連携して食事の提供をしたりしている。神奈川県との連携では、黒岩知事が推進されている健康団地プロジェクトとして笹山団地の中の10戸に横浜国立大学の学生が住んで、団地のコミュニティーの活性化のプロジェクトも行われているので、紹介させていただく。

4. その他

・藤掛学部長から外部委員へ、資料3の令和4年度都市科学部運営諮問会議コメントシートを、3月31日（金）までに提出してほしい旨の依頼があった。

・藤掛学部長から外部委員へ、都市科学部運営諮問会議の次期（令和5年度～令和6年度）委員を引き続きお願いしたい旨の依頼があり、宮坂委員、師岡委員及び青木委員から承諾する旨の回答があった。

（議事終了後）

対面参加の委員及びオブザーバーは、都市科学部講義棟へ移動し、外部委員が、令和3年度に改修工事を行った都市科学部講義棟を見学した。

以上